

参 考 資 料

(地方税関係)

1. 争訟手続

- ・ 地方税に関する不服申立制度について……………2
- ・ 地方税に関する不服申立制度……………3
- ・ 固定資産税の価格に関する審査申出……………4
- ・ 課税処分件数と課税関係争訟数との比較……………5
- ・ 固定資産評価審査委員会に対する審査申出件数の推移……………6
- ・ 団体類型別不服申立て・審査申出件数……………7
- ・ 不服申立て(異議申立て・審査請求)の処理状況(地方税)……………8
- ・ 訴訟の終結状況(地方税)……………9

2. 争訟機関

- ・ (再掲) 地方税に関する不服申立制度……………11
- ・ (再掲) 固定資産税の価格に関する審査申出……………12
- ・ 固定資産評価審査委員会の委員等……………13

1. 争訟手続

地方税に関する不服申立制度について

現 状

- 地方税の不服申立手続においては、原則として行政不服審査法に定めるところにより行われる(※)が、処分の大量性、争いの特殊性から、原則として「異議申立て」又は「審査請求」の手続を経た後に原処分の取消訴訟を提起できることとし、納税者の簡易・迅速な救済と、争訟の合理化を図っている。
- 固定資産の価格に関する納税義務者の不服については、固定資産の評価の客観的合理性を担保する必要があるとともに、評価が専門的知識を必要とし、技術的な面も多いことなどを踏まえ、市町村長から独立した中立的・専門的な機関として固定資産評価審査委員会を設置し、審査決定させている。

※地方税法(抄)

第十九条 地方団体の徴収金に関する次の各号に掲げる処分についての不服申立てについては、本款その他この法律に特別の定めがあるものを除くほか、行政不服審査法(昭和三十七年法律第百六十号)の定めるところによる。

一～九 略

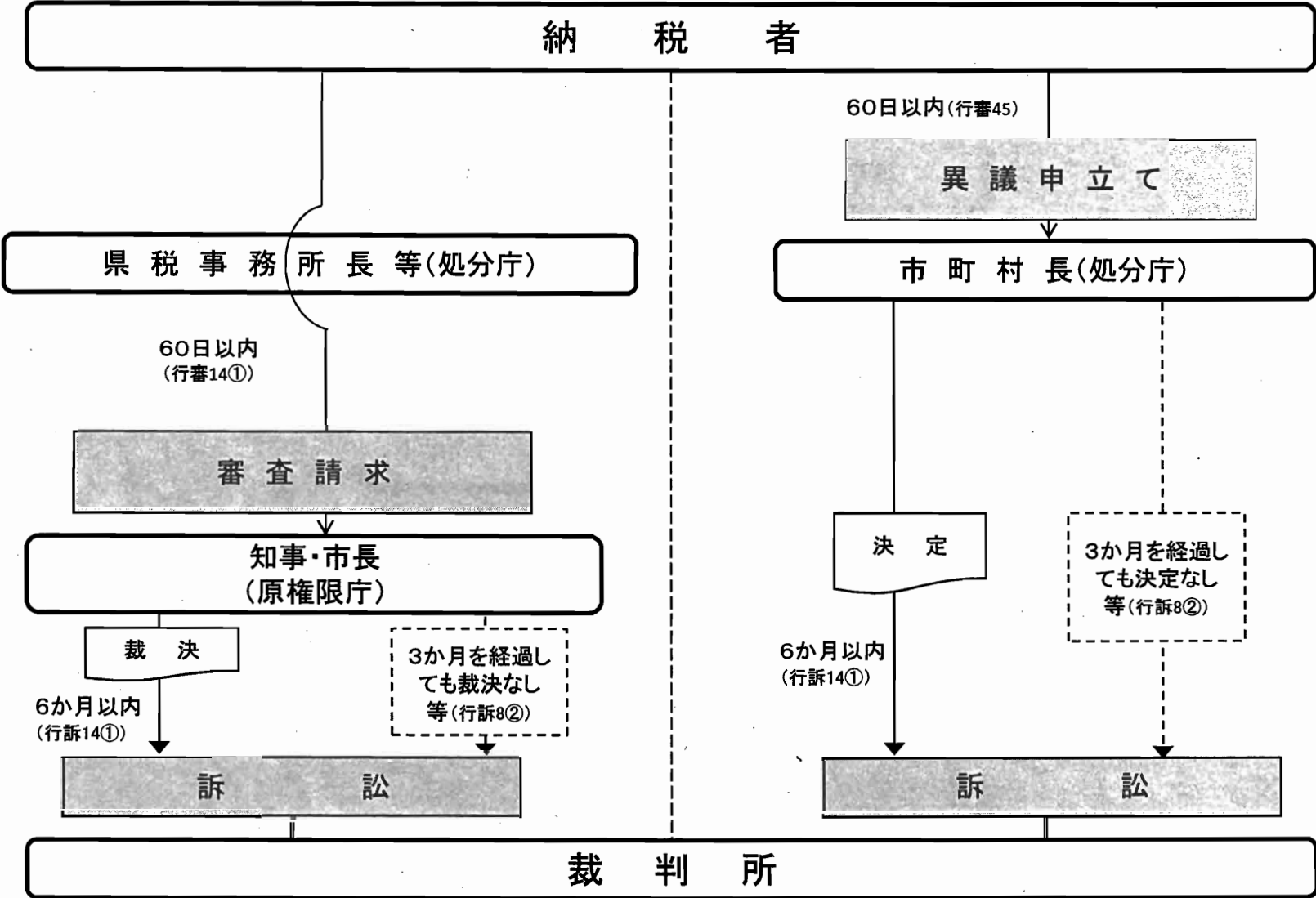
主な論点

- 国税と異なり、地方税の課税団体が多数にのぼり規模も様々であることに留意するとともに、地方自治の観点にも配慮が必要。
- 固定資産の価格に関する不服審査については、固定資産の評価の客観的合理性を担保する必要があることなどを踏まえ、独自の制度を設けていることに留意が必要。

地方税に関する不服申立制度

県税事務所等に処分権限が委任されている場合
例：都道府県・政令指定都市

処分権限が委任されていない場合
例：一般的な市町村

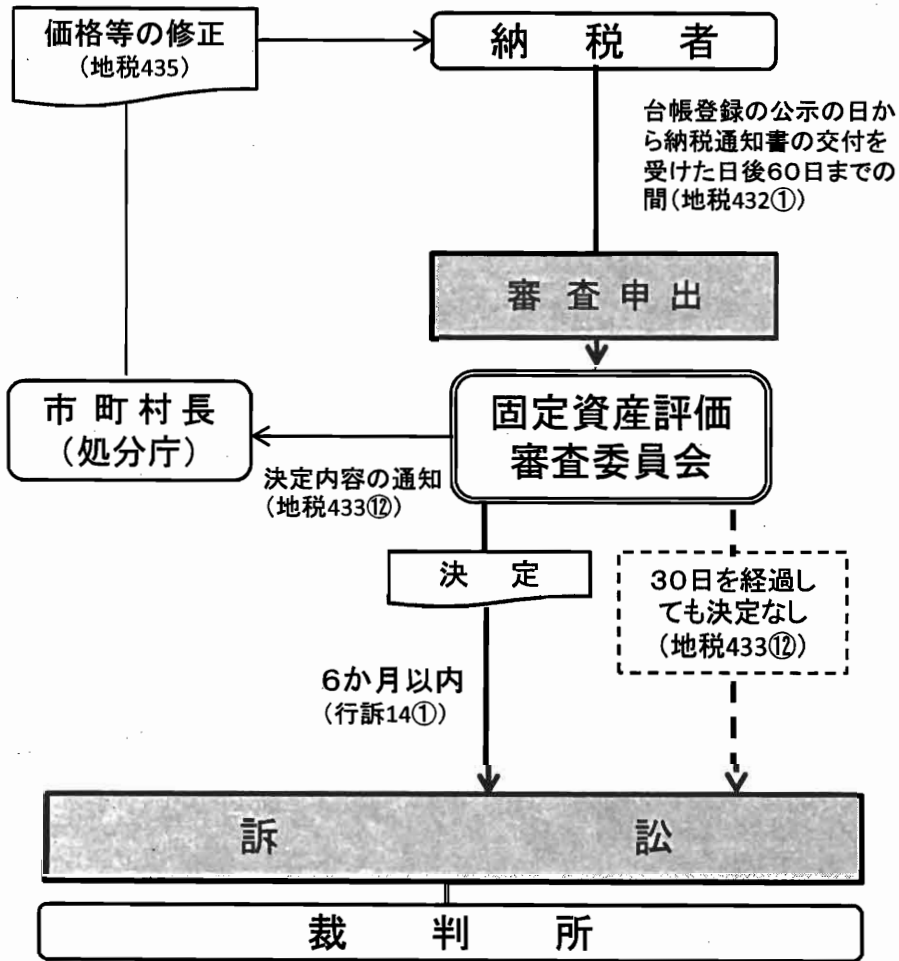


※固定資産の価格に関する納税義務者の不服については固定資産評価審査委員会において処理

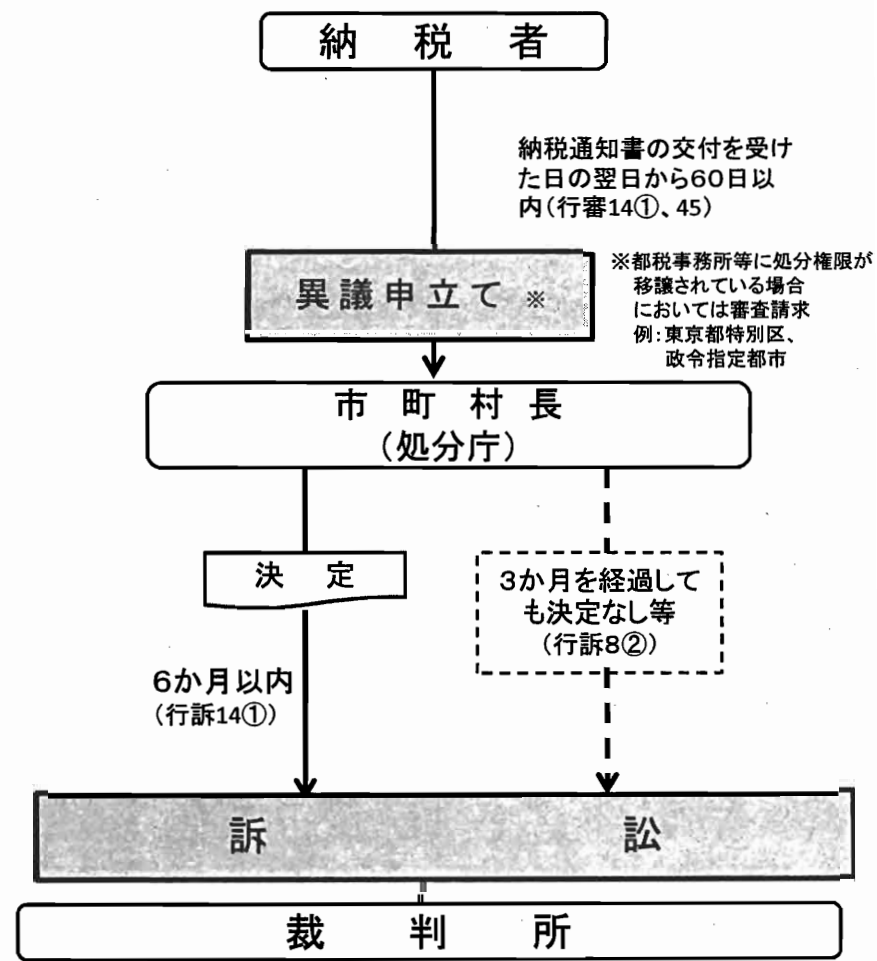
固定資産税の価格に関する審査申出

固定資産の価格に関する不服については、固定資産の評価の客観的合理性を担保する必要があるとともに、評価が専門的知識を必要とし、技術的な面も多いことなどを踏まえ、市町村長から独立した中立的・専門的な機関として固定資産評価審査委員会を設置し、審査決定させている。(固定資産の価格以外に関する不服については、他の地方税と同様の手続による。)

価格に関する不服



価格以外に関する不服



課税処分件数と課税関係争訟数との比較

| | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ①課税処分 | 2億1,126万件 | 2億1,580万件 | 2億1,711万件 | 2億1,801万件 |
| ②不服申立て※ | 936件 | 1,093件 | 1,090件 | 843件 |
| ③訴訟 | 77件 | 90件 | 76件 | 58件 |

※ 地方事務所等の長が行った課税処分に対する地方団体の長への審査請求を含む。

(注1) 上記計数は、各年度に行われた課税処分、不服申立て、訴訟の件数を単純に計上したものであり、それぞれ個別に対応するものではない。

(注2) 「課税処分」の件数は、賦課課税の税目の納税義務者数。申告納税の税目に係る更正・決定の件数は含まない。

(注3) 「不服申立て」及び「訴訟」は、各年度において、地方税の課税(申告納税の税目における更正・決定等を含む。)に対する「不服申立て」及び「訴訟」(固定資産税に係る固定資産の価格に関するものを除く。)の発生件数を合計したものの。

固定資産評価審査委員会に対する審査申出件数の推移

(平成21年9月1日現在)

| | | 平成6年度 | 平成9年度 | 平成12年度 | 平成15年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 (参考) |
|-------------|--------|--------------------|--------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-----------------|-----------------|-------------------|
| 土 地 | 納税義務者数 | 3,497万人 | 3,624万人 | 3,708万人 | 3,798万人 | 3,851万人 | 3,874万人 | 3,899万人 | 3,931万人 |
| | 審査申出件数 | 20,857件 (0.06%) | 10,741件 (0.03%) | 4,626件 (0.01%) | 3,397件 (0.01%) | 2,336件 (0.01%) | 562件 (0.00%) | 555件 (0.00%) | 3,162件 (0.01%) |
| 家 屋 | 納税義務者数 | 3,221万人 | 3,562万人 | 3,541万人 | 3,674万人 | 3,799万人 | 3,835万人 | 3,876万人 | 3,906万人 |
| | 審査申出件数 | 1,673件 (0.01%) | 3,412件 (0.01%) | 1,787件 (0.01%) | 1,415件 (0.00%) | 889件 (0.00%) | 213件 (0.00%) | 249件 (0.00%) | 1,270件 (0.00%) |
| 償却資産 | 納税義務者数 | 392万人 | 407万人 | 409万人 | 403万人 | 386万人 | 388万人 | 395万人 | 396万人 |
| | 審査申出件数 | 3件 (0.00%) | 1件 (0.00%) | 16件 (0.00%) | 5件 (0.00%) | 8件 (0.00%) | 3件 (0.00%) | 8件 (0.00%) | 7件 (0.00%) |
| 審査申出件数合計(件) | | 22,229件 | 13,255件 | 5,845件 | 4,549件 | 2,761件 | 735件 | 732件 | 4,193件 |

※1 納税義務者数は各年度の概要調書による。

※2 「平成21年度(参考)」欄の数値は、平成21年4月1日から平成21年9月1日までに審査申出された件数であり、変動することがある。

※3 1件の審査申出が土地・家屋・償却資産にわたる場合、それぞれ1件として計上しているため、審査申出件数合計とは一致しない。

団体類型別不服申立て・審査申出件数

【18年度発生件数】

(単位:団体・件)

| 団体類型 | | 団体数 | 不服申立て | 固定資産評価審査委員会に対する審査申出 | | | |
|------|------------|-------|------------|---------------------|-------|-----|------|
| 都道府県 | | 47 | 564 (12.0) | 合計 | 土地 | 家屋 | 償却資産 |
| 市町村 | 政令市・東京都特別区 | 16 | 490 (30.6) | 1,044 (65.3) | 661 | 387 | 5 |
| | 上記以外の市 | 767 | 390 (0.5) | 1,550 (2.0) | 1,541 | 448 | 0 |
| | 町村 | 1,022 | 25 (0.0) | 167 (0.2) | 134 | 54 | 3 |
| | 計 | 1,805 | 905 (0.5) | 2,761 (1.5) | 2,336 | 889 | 8 |

【19年度発生件数】

| 団体類型 | | 団体数 | 不服申立て | 固定資産評価審査委員会に対する審査申出 | | | |
|------|------------|-------|------------|---------------------|-----|-----|------|
| 都道府県 | | 47 | 576 (12.3) | 合計 | 土地 | 家屋 | 償却資産 |
| 市町村 | 政令市・東京都特別区 | 18 | 419 (23.3) | 231 (12.8) | 162 | 89 | 1 |
| | 上記以外の市 | 766 | 517 (0.7) | 436 (0.6) | 344 | 111 | 2 |
| | 町村 | 1,004 | 35 (0.0) | 68 (0.1) | 56 | 13 | 0 |
| | 計 | 1,788 | 971 (0.5) | 735 (0.4) | 562 | 213 | 3 |

【20年度発生件数】

| 団体類型 | | 団体数 | 不服申立て | 固定資産評価審査委員会に対する審査申出 | | | |
|------|------------|-------|-------------|---------------------|-----|-----|------|
| 都道府県 | | 47 | 429 (9.1) | 合計 | 土地 | 家屋 | 償却資産 |
| 市町村 | 政令市・東京都特別区 | 19 | 483 (25.4) | 210 (11.1) | 135 | 99 | 7 |
| | 上記以外の市 | 765 | 497 (0.6) | 451 (0.6) | 363 | 125 | 0 |
| | 町村 | 992 | 34 (0.0) | 71 (0.1) | 57 | 25 | 1 |
| | 計 | 1,776 | 1,014 (0.6) | 732 (0.4) | 555 | 249 | 8 |

※ ()内は、1団体当たりの件数。

※ 東京都特別区は1市として計上している。

※ 1件の審査申出が土地・家屋・償却資産にわたる場合、それぞれ1件として計上しているため、審査申出件数合計とは一致しない。

不服申立て(異議申立て・審査請求)の処理状況(地方税)

(単位：件、%)

| 区分 | 要処理件数 | | | 処理件数 | | | | | | 未済 件数 ⑩ (③-⑨) |
|------|------------------|------------------|------------------|-------------------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|---------------------|------------------------|
| | 前年度 未済件数 ① | 当年度 発生件数 ② | 合計 ③ (①+②) | 申立ての 取下げ等 ④ | 申立ての 却下 ⑤ | 申立ての 棄却 ⑥ | 処分の 一部取消 ⑦ | 処分の 全部取消 ⑧ | 合計 ⑨ (④-⑧の合計) | |
| 18年度 | 433 | 1,469 | 1,902 | (11.8%) 172 | (17.5%) 255 | (66.0%) 963 | (3.6%) 52 | (1.1%) 16 | (100.0%) 1,458 | 444 |
| 19年度 | 466 | 1,547 | 2,013 | (18.3%) 283 | (18.9%) 293 | (60.8%) 940 | (1.2%) 19 | (0.8%) 12 | (100.0%) 1,547 | 466 |
| 20年度 | 463 | 1,443 | 1,906 | (9.5%) 137 | (25.4%) 368 | (62.4%) 903 | (2.0%) 29 | (0.7%) 10 | (100.0%) 1,447 | 459 |
| 課税関係 | 346 | 843 | 1,189 | 106 | 135 | 601 | 27 | 8 | 877 | 312 |
| 徴収関係 | 107 | 579 | 686 | 30 | 231 | 298 | 2 | 2 | 563 | 123 |
| その他 | 10 | 21 | 31 | 1 | 2 | 4 | 0 | 0 | 7 | 24 |

(注1) 固定資産の価格に関する不服申立ては含まない。

(注2) 上記のうち、カッコ書きは構成比。

訴訟の終結状況(地方税)

(単位：件、%)

| 区分 | 期首係属 件数 ① | 当期発生 件数 ② | 終結件数 | | | | | 合計 ⑧ (③～⑦の合計) | 期末係属 件数 ⑨ (①+②-⑧) |
|------|-----------------|-----------------|------------------|----------------|----------------|------------------|------------------|---------------------|----------------------------|
| | | | 訴えの 取下げ等 ③ | 訴えの 却下 ④ | 訴えの 棄却 ⑤ | 処分の 一部取消 ⑥ | 処分の 全部取消 ⑦ | | |
| 18年度 | 232 | 176 | (15.8%) 29 | (10.9%) 20 | (67.2%) 123 | (1.6%) 3 | (4.4%) 8 | (100.0%) 183 | 225 |
| 19年度 | 228 | 153 | (26.3%) 49 | (7.0%) 13 | (56.5%) 105 | (3.2%) 6 | (7.0%) 13 | (100.0%) 186 | 195 |
| 20年度 | 191 | 168 | (11.2%) 16 | (6.3%) 9 | (72.7%) 104 | (2.1%) 3 | (7.7%) 11 | (100.0%) 143 | 216 |
| 課税関係 | 97 | 58 | 2 | 4 | 49 | 1 | 5 | 61 | 94 |
| 徴収関係 | 35 | 59 | 8 | 4 | 25 | 0 | 0 | 37 | 57 |
| その他 | 59 | 51 | 6 | 1 | 30 | 2 | 6 | 45 | 65 |

(注1) 件数は、一審から終審までの合計。

(注2) 上記のうち、カッコ書きは構成比。

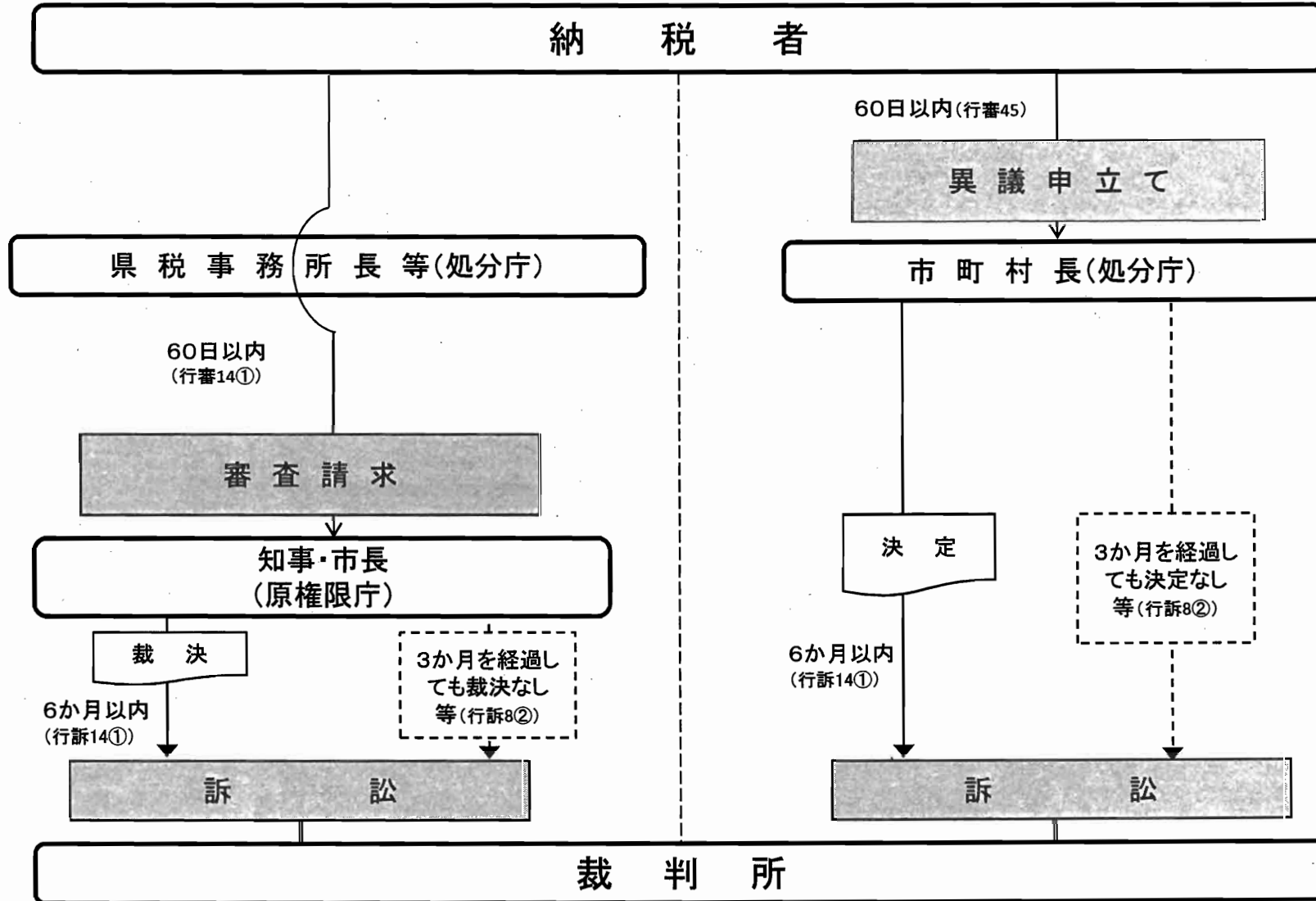
(注3) 「その他」は、損害賠償請求訴訟、不当利得返還請求訴訟、固定資産評価審査委員会の決定の取消訴訟等に係るもの。

2. 争訟機関

(再掲) 地方税に関する不服申立制度

県税事務所等に処分権限が委任されている場合
例：都道府県・政令指定都市

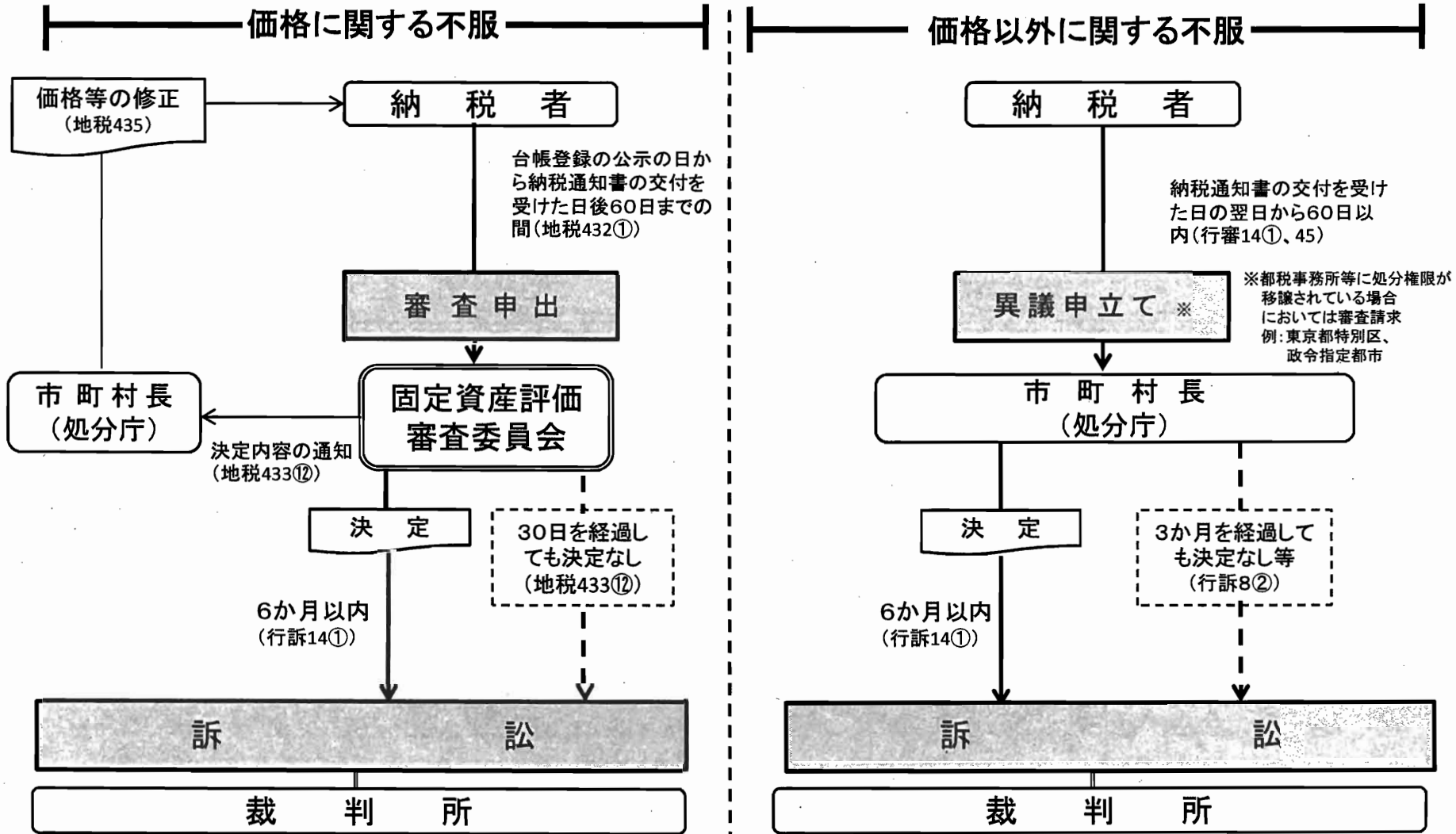
処分権限が委任されていない場合
例：一般的な市町村



※固定資産の価格に関する納税義務者の不服については固定資産評価審査委員会において処理

(再掲)固定資産税の価格に関する審査申出

固定資産の価格に関する不服については、固定資産の評価の客観的合理性を担保する必要があるとともに、評価が専門的知識を必要とし、技術的な面も多いことなどを踏まえ、市町村長から独立した中立的・専門的な機関として固定資産評価審査委員会を設置し、審査決定させている。(固定資産の価格以外に関する不服については、他の地方税と同様の手続による。)



固定資産評価審査委員会の委員等

○固定資産評価審査委員

- 委員の定数(地方税法423②)
3人以上とし、条例で定める
- 委員の選任(地方税法423③)
住民、市町村税の納税義務がある者又は固定資産の評価について学識経験を有する者のうちから、議会の同意を得て、市町村長が選任
- 委員の任期(地方税法423⑥)
3年

(注) 東京都特別区及び政令指定都市について調査したところ、全委員186人のうち税理士が40人(21.5%)、弁護士が40人(21.5%)、不動産鑑定士が40人(21.5%)、建築士が31人(16.7%)となっている。(平成21年度)

○合議体

- 事案毎に3人の合議体で構成(地方税法428①)
(うち1人を審査長に指定(地方税法428②))
※審査長は、口頭審理における指揮権を有する(地方税法433⑧)
- 合議体の議事は、合議体を構成する委員の過半数により決定(地方税法428④)
(合議体を構成する委員の過半数の出席が必要(地方税法428③))